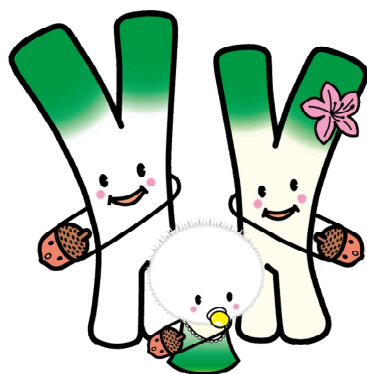


米子市チームオレンジ

活動の手引き



令和7年2月
米子市長寿社会課

目次

1	はじめに	2
2	チームオレンジの概要	2
3	米子市チームオレンジについて	3
4	立ち上げの流れ	3
5	活動内容	5
6	開催頻度	6
7	その他運営関係	6
8	関係機関との連携	7
9	登録申請等の流れ	8
10	よくある質問	9

1 はじめに

急速な高齢化の進展に伴い、今後も認知症の人の増加が見込まれます。認知症の人が自らの尊厳と希望を持って暮らすことのできるまちづくりは、様々な生きづらさを抱えていても、一人ひとりの人格や個性が尊重され、支え合いながら共生することのできる、「共生社会」の実現につながります。

米子市では、認知症を「暮らしの障がい」として捉え、世代等を問わず認知症を「自分ごと」として考えることのできるまちづくりを推進しています。

その一環として、認知症の人やその家族を含めた地域の人が、相互に支えあいながら暮らすことのできる地域づくりに向け、新たなコミュニティとして、地域における「チームオレンジ」の構築を行うこととしています。

2 チームオレンジの概要

(1) 背景

令和元年 6 月に策定された「認知症施策推進大綱」（令和元年 6 月認知症施策推進閣僚会議）において、基本理念のひとつである「共生」を進めるためには地域支援体制の強化が必要であるとされました。

そのための具体的な方策の一つとして「チームオレンジ」を地域ごとに構築することが位置付けられています。

(2) チームオレンジとは

認知症と思われる初期の段階から、心理面・生活面の支援として、地域において把握した認知症の人の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等と認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組みです。

また、本人と共に、地域の社会資源を活かしたインフォーマルな支え合いの仕組みづくりを行う一つの手段であり、本人がどんな暮らしをしたいかを起点につくりあげるものです。

地域の本人や家族のニーズ、社会資源の状況等に応じて、チームオレンジには多様な形が考えられます。実際に、各地域では本人や家族と共に活動する多様なチームオレンジが広がっています。

3 米子市チームオレンジについて

(1) 目的・コンセプト

米子市チームオレンジは、「認知症に関する正しい知識を有する方々が、その知識を活かして、認知症の人及びその家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまちづくりを推進すること」をコンセプトにしています。

(2) チームのメンバー構成

近隣に住んでいる認知症サポーター等による認知症の人や家族に対する生活面の早期からの支援等を行います。認知症の人もメンバーとしてチームに参加することが望まれます。

(3) 取組の推進体制及びサポート体制

米子市では、令和6年度から、「認知症サポーターステップアップ講座」を開催しています。チームオレンジのメンバーの年代に関わらず、地域で認知症の人や家族を支える体制を目指します。

認知症地域支援推進員は「コーディネーター」として、チームオレンジの立ち上げや活動支援、チームメンバーとの調整等を行います。「活動したいけれど、どうすればいいのかわからない」、「一緒に活動してくれる仲間を見つけない」などの相談があれば、コーディネーターがサポートします。

4 立ち上げの流れ

(1) チームのメンバー構成

認知症の人とその家族、住民サポーター、各種職域サポーター（薬剤師・銀行員・スーパー、コンビニなど）、キッズサポーター、介護・医療関係サポーターなどとキャラバン・メイトのメンバー等で構成します。

認知症の人が、地域で生活していく上での関りのある幅広い年齢層、各種の職域サポーターがメンバーになることが重要です。

また、「米子市チームオレンジ登録事業実施要綱」（令和6年11月18日施行）第4条第2項においては、「チームのメンバーのうち1人以上が認知症サポーターステップアップ講座を受講していること、又は受講する予定であること。」を要件としています。

(2) 代表者の選定と役割

代表者（チームリーダー）を選定します。また、チームの円滑な運営のために、副リーダー2～3名をチームオレンジのメンバーの中から選出することが望ましいです。

代表者は、チームの登録や活動報告などの各種事務手続きを行うとともに、副リーダーとともにチームオレンジの運営を取り仕切ります。

(3) 交流拠点について

交流拠点の設置は必須ではありません。チームで取り組みたい活動などを踏まえながら、チームメンバーで話し合って決めましょう。

【交流拠点を設置する場合】

交流拠点を設置する場合には、空き店舗・空き家の活用や、スーパー・ショッピングセンター・金融機関など商業施設の空きスペースの活用など、既存の資源を活用して、できる限り常時使用できる拠点スペースを確保することが望ましいです。また、既にある介護予防教室等の通いの場に併設することなども考えられます。

開所時間はメンバーの実情に応じて、柔軟に対応することになりますが、主にサポーター2～3名がスタッフとして駐在することが望ましいです。

担当する時間は、午前と午後、あるいは一定時間ごとに交代するなど、チームで取り決めます。

【交流拠点を設置しない場合】

交流拠点を設置しない場合、既存のサロンや認知症カフェなどへチームメンバーが訪問し、認知症の人やその家族を支援することなどが考えられます。活動拠点が確保できない場合にも実施できる方法です。

チームメンバー同士のコミュニケーションがとりづらい可能性があるため、運営に際して、LINE やメール等を活用してみましょう。

5 活動内容

米子市におけるチームオレンジの活動は主に以下のとおりです。

- ① 認知症の人及びその家族の支援
- ② 認知症に対する正しい理解の促進
- ③ 活動の実施に係る周知

具体的な活動内容は、チームメンバーやコーディネーターで話し合っ
て決めましょう。
「地域でこんなことができたらいいな」という活動を、ぜひ実現していきま
しょう。

(1) 認知症の人及びその家族の支援

認知症の症状は、人それぞれ違うものですが、例えば、時間や場所を覚
えるのが苦手だったり、あるいは、一人で出かけたときに帰り道がわから
なくなる不安がある場合があります。こうした日々の生活における、ち
ょっとした困りごとの支援やお手伝いや、市や関係機関が実施する取
組や制度へのつなぎ支援などを行います。

<活動例>

- ・ 認知症で悩んでいる人に対する、市や地域包括支援センターが行っ
ている認知症支援事業や相談先の情報提供
- ・ 簡単な日常生活における支援（外出支援、見守り・声掛け、傾聴な
ど）

米子市が行っている認知症施策や相談先の詳細については、米子市長
寿社会課のホームページをご参照ください。

(URL: <https://www.city.yonago.lg.jp/40963.htm>)

(2) 認知症に対する正しい理解の促進

認知症の人と家族の視点を踏まえた「認知症サポーター養成講座」の
テキストを活用し、認知症について年代問わず自分ごととして理解す
ることができる取組や、認知症と診断されても希望を持って生きること
ができるという考え方の普及を図ります。

<活動例>

- ・ 認知症サポーター養成講座の開催や、地域における「認知症 SOS
地域ネットワーク 模擬訓練」の実施
- ・ 認知症の人やその家族と認知症の啓発グッズの製作活動及びグッ
ズの掲示、広報等
- ・ 地域にある事業所や企業等に対する認知症サポーター養成講座の
受講の働きかけ等

(3) 活動の実施に係る周知

様々な機会や媒体を活用して、チームオレンジの活動の周知を行います。また、これらの周知については、新たなチーム員や参加する認知症の人・家族の増加に資するだけでなく、「私もチームオレンジを立ち上げたい」など、地域におけるチームオレンジの広がりにつながるものになることが望ましいです。

<活動例>

- ・ 地域におけるチームのチラシの配布及び掲示
- ・ 親しみやすい看板などの設置
- ・ SNS やホームページへの活動内容の掲載、地域誌における案内等

6 開催頻度

チームの状況等により、自由に開催頻度を設定できますが、認知症の人の日々の暮らしの安心のためには、いつも同じ場所で、同じ時間に常にそこにサポーターが駐在していることが効果的です。

7 その他運営関係

(1) 飲食の提供

お茶やお菓子等の提供は自由です。ただし、不特定もしくは多数の人に反復継続して飲食を提供する場合は、食品衛生法等に基づく営業許可が必要になるため、予め管轄の保健所に相談してください。

(2) 参加費

チームの実情に応じて設定することが可能です。チームオレンジに参加する人のコーヒーやお茶、お菓子代として100円～500円程度が目安と考えられますが、負担にならない範囲の金額を検討してください。

また、企画内容により参加費以外に別途費用がかかる場合は、事前にその旨を参加者に説明する必要があります。

(3) 緊急時の対策

ケガや急病の際の医療機関、緊急連絡先等を、交流拠点内の目のつきやすい場所に掲示しておきましょう。

8 関係機関との連携

必要に応じて、様々な機関や人々と一緒に、チームオレンジの活動をすすめていきましょう。

(1) 地域包括支援センター

地域包括支援センターは、地域にあるさまざまな社会資源を活用し、高齢者の生活を総合的に支えるための拠点として設置されています。社会福祉士・主任ケアマネジャー・保健師などが中心となって、介護予防ケアマネジメントをはじめとする高齢者への総合的な支援を行っています。

(2) 認知症地域支援推進員

認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるように、地域の認知症に対する関心を高め、地域の実情に応じて医療機関、介護サービス事業所や地域の支援機関をつなぐ連携支援などを行っています。チームオレンジのコーディネーターの役割も担っています。

(3) 認知症初期集中支援チーム

医師や医療・介護の専門職で構成し、医療機関や介護保険サービスの紹介、家族でのケアなど初期に求められる支援を包括的・集中的に行い、自立生活をサポートしています。米子市では各地域包括支援センターにチームを設置しています。

(4) 認知症カフェ

認知症カフェは、認知症の人やその家族、医療や介護の専門職、地域の人などが気軽に参加し、交流や相談等をするのできる「集いの場」です。公的な制度に基づくものではありませんが、米子市では、介護サービス事業所や認知症サポーター、地域包括支援センターなど、様々な運営者により取組が広がっています。

(5) 生活支援コーディネーター

生活支援コーディネーターは、日常生活の支援が必要な高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅で健やかに安心・安全に継続して住み続けられる地域づくりのため、生活支援の担い手の養成やサービスの資源開発、サービス提供主体等の関係者のネットワーク構築を進めています。

(6) 民生委員・児童委員

「民生委員法」「児童福祉法」によって規定された地域住民の立場に立って必要な相談・

支援を行うボランティアです。米子市内では、日ごろから区域担当民生委員・児童委員、主任児童委員が住民から社会福祉に関わる相談を受け、支援活動に取り組んでいます。

(7)その他(地域の人)

地域の人への参加制限はせず、楽しく交流を深める中で認知症への理解と偏見の解消、認知症の人への対応法を知ってもらう機会とします。また、地域の高齢者の参加は介護予防、孤立防止につながるものと考えられます。

9 登録申請等の流れ

以下の手順に従って登録申請を行います。なお、手続きに必要な書類の様式等については、市ホームページに掲載しています。(この他、市長寿社会課窓口での配布もしておりますので遠慮なくお問い合わせください)

【団体⇒米子市】

- ① 「米子市チームオレンジ登録申請書(様式第1号)」を提出
または、とっとり電子申請サービスから申請(右の二次元コードを読み取り)



- ② 米子市が内容を審査・登録

【米子市⇒団体】

- ③ 「米子市チームオレンジ登録証(実施要綱別記様式第2号)」を交付

【団体⇒米子市】

- ④ 翌年度の4月15日までに、
「米子市チームオレンジ活動報告書(実施要綱別記様式第5号)」を提出

10 よくある質問

Q1 チームに認知症の人がいない場合や活動していない場合には、チームオレンジとは言えませんか？

A1 チームオレンジの基本的な考え方として、認知症の人にチームの一員として参加いただくことが望ましいですが、一方で、本人がチームの一員として参加することは必須ではありません。認知症の人の視点に立って施策を推進する必要があることを鑑みると、本人の意見や意向を聞かないまま支援が行われることがないよう心掛けていただくことが肝要であり、形式的なチーム員としての参加者登録などにとらわれず、認知症の人本人の意向をチームオレンジの活動に反映する機会を設けていることが必要です。

Q2 認知症の人本人の意向をチームオレンジの活動に反映するためには、どうしたらよいですか？

A2 例えば、チームの立ち上げ当初から特定の当事者をメンバーにするのではなく、本人ミーティングや認知症カフェなど、既に認知症の人が参加している取組と連携し本人の意向を活動に反映する機会を設ける方法も考えられます。その上で、チーム活動の進展に応じ、認知症の人本人の参加を検討していくことが考えられます。

Q3 参加していただく認知症の人は、診断がなければいけませんか？

A3 必ずしも診断は必要ではありません。参加していただく認知症の人は、MCIの段階の人や認知症の疑いがある人も含みます。

Q4 認知症カフェなど既に実施している取組を活用することは可能ですか？

A4 可能です。必ずしも、新しい組織を立ち上げる必要はありません。他分野も含め、認知症の人や家族が既に関わっている既存の組織・ネットワークを起点として、新たにチームオレンジの機能・役割を追加して整備されるパターンも考えられます。また、これまで介護・福祉分野で行われてきた既存の組織やネットワークによる活動の中で、既に実施要綱の要件を満たす取組があれば、それをチームオレンジの取組として位置づけることも可能です。